

ESD／ユネスコスクール 東北コンソーシアム 学び合いセミナー

モデル地域からの取組発表
～福島県只見町教育委員会～



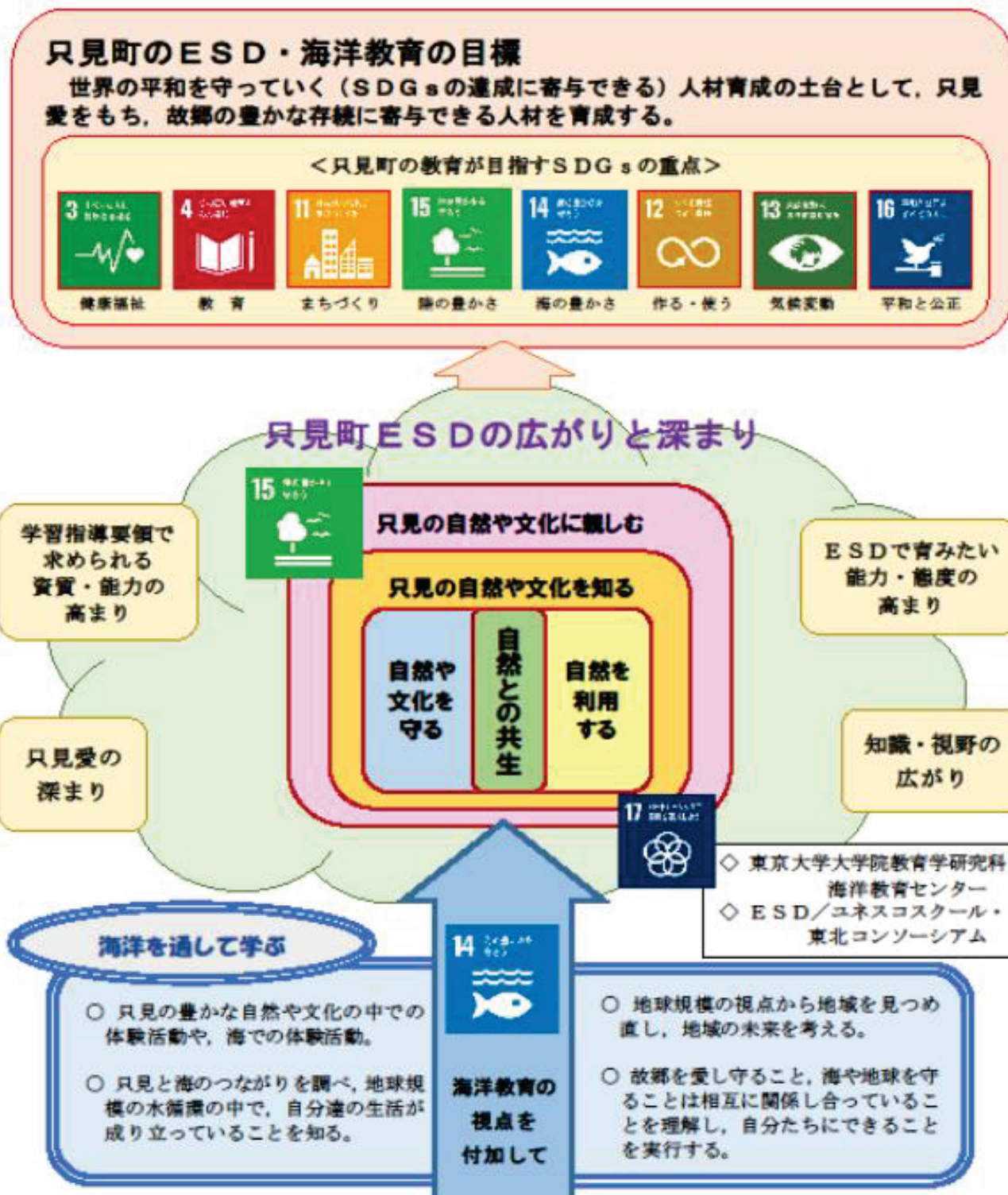
故郷只見を愛し、 誇りに思う心を育てるESD ～故郷のよさを学び、 課題を見つめ、未来を切り拓く力へ～

○ 只見町の今までのESDの取組を大切に

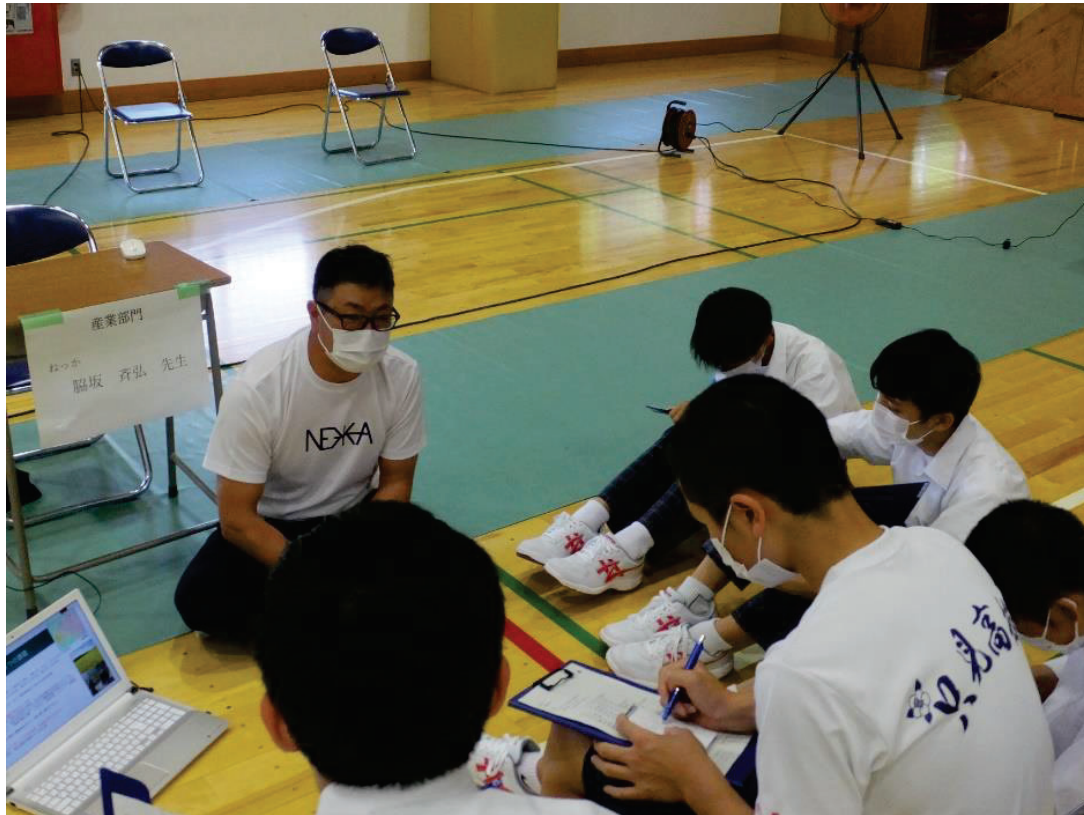
- ・ 地域の自然や文化に触れる「只見学」を重視。カリキュラム化。
- ・ 地域の課題の解決を図る学習
- ・ ユネスコエコパークとしての意識
- ・ ブナセンターなどの地域学習センターとの連携

○ 海洋教育の新たな視点を取り入れることで

- ・ 只見愛の醸成
 - ・ 知識・視野の広がり
 - ・ 資質・能力の高まり
- への期待



福島県立只見高等学校との連携



総合的な探究の時間
地域の人が先生に



町に貢献する学び
「立て！グローバルリーダー」

パンフレット作成と町民への配付



只見町のESD・海洋教育



故郷只見を愛し、誇りに思う心を育てるESD
 故郷のよさを学び、課題を見つめ、未来を切り拓く力へ
 ～海洋教育の視点を付加したESDの取り組み～



故郷を大切に思う心は、地球を守る！

福島県只見町教育委員会

只見町立只見小学校, 朝日小学校, 明和小学校, 只見中学校

Ⅱ 朝日小学校の実践

1 実践名

つながりの中で「只見愛」を育みながら、学び続ける子どもの育成を目指して
 ～ESDストーリーマップにおいてESDの能力・態度を育む実践を通して～

2 実践の概要

本校ではこれまで、ESDを「将来にわたって、持続可能な只見町、国際社会を構築する担い手を育てるための教育」と考え、生活科や総合的な学習の時間における只見の「人・もの・こと」に直接ふれる郷土学習「只見学」を中核として各教科、特別活動と関連を図りながら実践を重ねてきた。

昨年度、学びのストーリー性やつながりを明確にしたESDストーリーマップを作成し、さらに海洋教育とのつながりを明確に示した。今年度はそのESDストーリーマップを実践していく中で、本校でのESDの能力・態度を育む実践と海洋教育との関連性や、6年間の系統性を考えた学びの姿、子どもたちに海とのつながりを意識させていくことができる単元構想や授業展開について研究を進めてきた。

3 成果と課題

- 低学年においては、身近な自然や町のよさ、自慢したいことについて自ら調べ、ふれあう活動を行ったことにより、自分たちの周りがある環境の素晴らしさや、それに携わる人々の努力などに気付くことができ、海洋教育へのベースづくりを行うことができた。
- 中学年においては只見町の自然に実際にふれたり、ゲストティーチャーの話や、水質調査をしたりすることで美しい自然や多くの生き物を支えている豊かな水の存在に気付くことができた。また、水の循環について理解したことで、上流に住んでいる自分たちの生活が下流（海）地域の人の生活にも影響を及ぼすことに気づき、海と自分たちの生活とのつながりを意識できるようになってきた。
- 高学年においては、只見町の現状と課題にも目を向け、只見町の未来について考えてきた。只見町と海沿いの地域との共通点や相違点を捉えたり、海沿いの地域の取組を只見町で生かすことができないかを考えたりすることで、子どもたちの視野を広げさせることができた。
- 周囲を山に囲まれた本校では、海とのつながりを日常生活で感じることに難しい子どもたちに、海とのつながりを意識させられるような単元構想や授業の工夫を今後もしていく必要がある。また、地域の「人・もの・こと」とのつながりを児童が実感できるように、教師自身が自ら地域に足を運び、地域の教材開発をさらに深めたりする必要がある。

4 主な実践の様子

(1) 全校生で川を体感する「なかよし活動」

本校では、7月に全校生で学区内を流れる黒谷川での川遊び体験を行っている。地域の方を講師に招き、縦割り班ごとに、6年生の班長を中心として、川の楽しみ方を教えていただいた。



<五感を使って川を体感>

只見町の教育が目指すSDGs重点



SDGs15：陸の豊かさを守ろう

→ 14:海の豊かさを守ろう

「地域の豊かな自然や文化を守ろう」 → 「水や環境を大切に海や地球を守ろう」



3:すべての人に健康と福祉を
 「みんな元気で思いやりを
 持つ子に」

4:質の高い教育をみんなに
 「豊かな教育ができるよう
 努力します」

11:住み続けられるまちづくりを
 「地域を学び、発信し、町を
 元気にする教育を」



12:つくる責任 つかう責任
 「自分の物も、みんなで使う
 物も大切にしよう」

13:気候変動に具体的な対策を
 「水や電気を無駄なく大切に使
 おう」

16:平和と公正をすべての人に
 「人の気持ちを考え、みんなに
 公平に接しよう」

※身近な取組から、「世界の誰も取り残さない」社会へ

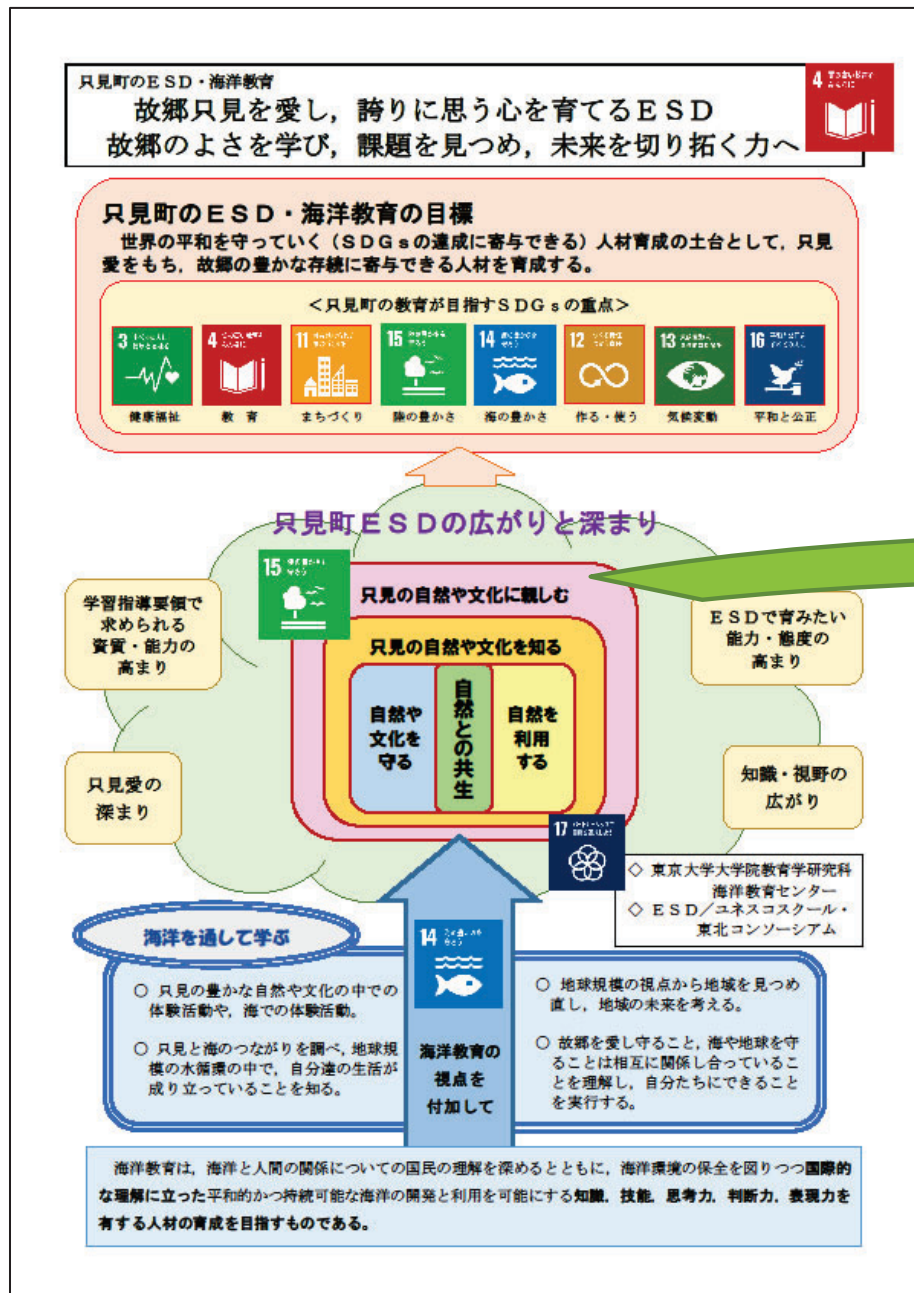
SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、世界の全ての人々が平和で、幸せにくらせるようにと願い、国連が定めた17項目の国際的な目標で、2030年までの達成を目指して世界中で努力しているものです。

只見町の学校ではESD※を通して、上記のSDGs 8項目を重点化して達成を目指しています。

※ ESDとは・・・

Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育
 「自分の利益だけを考えず、将来にわたって豊かに存続できる地域、地球、世界を作っていくとする人材を育成する教育」

グランドデザインの作成



只見町のESD・海洋教育で目指す子どもたちの姿

世界の平和を守っていく人材育成の土台として、故郷只見愛をもち、故郷の豊かな存続に寄与できる人材

只見高等学校 故郷只見愛をもち、故郷や世界の豊かな存続を意識し、実践しようとする人材
・地域協働推進校としてESDの実践 ・山村教育留学制度 ・レインボープランの推進

	親しむ	知る	守る	利用する	身につかせたい力
	自然との共生				
只見中学校	只見町と海での体験活動や調査、人々との関わりを通して、地球の自然やそれを活用して文化を築いてきた人々の素晴らしさや、持続可能な社会という視点からの課題に気づき、進んで関わろうとする。	只見町と海の自然や文化等におけるつながり、地球規模の環境問題等について、課題をもって調べることで、只見町や我が国、地球全体が抱える課題について多面的に理解する。	故郷を愛し守ることは相互に関係し合っていることを理解し、様々な地域での取組を参考にしながら、自然や文化を守るための取組を考え、自分たちに行えることを実行する。	只見町の自然や文化を生かしたり、様々な地域での取組を参考にしたりしながら、持続可能な社会をつくる取組を考え、自分たちに行えることを実行する。	様々な能力態度を総合的に発揮し、実践する力 批判的に考え、創造する力
小学校 高学年	只見町と海での体験活動や調査、人々との関わりを通して、只見町の素晴らしさや、持続可能な社会という視点からの課題に気づき、進んで関わろうとする。	只見町と海の自然や文化等におけるつながり、自分達の生活と海のつながりについて、課題をもって調べることで、自分たちが、地球規模の水循環の中で生活していることを理解する。	只見町の自然や文化、町の人々を大切に思う気持ちを持ち、海や海辺の地域での取組を参考にしながら、それらと関わったり、守るための取組を考えて実行したりする。	只見町の自然や文化を生かしたり、海や海辺の地域での取組を参考にしたりしながら、持続可能な只見町をつくる取組を考え、発信する。	多面的・総合的に考える力 未来を予測して計画を立てる力
小学校 中学年	只見町の自然や文化の中での体験活動、町の人々との関わりを通して、それらの素晴らしさに気づき、進んで関わろうとする。	只見町の自然や文化、自分とのつながりについて、疑問をもって、体験したり、調べたりすることで、只見町を理解する。	只見町の自然や文化、町の人々を大切に思う気持ちを持ち、それらと関わったり、守るために行動したりする。	只見町では自然を利用して生活したり、文化が生まれ育っていることに気づき、それを意識して生活する。	自ら実践する力 情報収集・分析する力 コミュニケーションを行う力
小学校 低学年	自分の住む地域の自然や文化の中での体験活動、地域の人々とのふれあいを通して、地域に愛着をもつ。	自分の住む地域の自然や文化を体験したり、調べたりすることで、自分の住む地域を理解する。	自分の住む地域の自然や文化、地域の人々を大切に思う気持ちを持ち、進んで関わる。	自分の住む地域の自然を利用して遊んだり、生活を楽しくしたりする。	つながりや尊重する態度 他者と協力する態度 進んで参加する態度

只見町小中学校での取組

- 各校における研究実践、公開
- 防災教育
- 只見町社会教育施設の活用
- 海辺の地域、海外ユネスコスクール等との交流
- 海洋教育全国サミット等への参加
- 只見学の推進（只見おもしろ学ガイドブック活用・只見おもしろ学検定）



ESD勉強会(小中学校・町民)



「地球のステージ」

様々な貧困地域や紛争地域などの様子や人々の暮らしを知る



「キリバスと温暖化」

地球温暖化とキリバス、只見町との関係について学ぶ

中学校の取組の広がり

みんゆうジュニア情報局

2020年(令和2年) 6月14日 毎週日曜日発行
発行 福島民友新聞社 発行所 024(578)1131(代)
〒990-8618 福島市緑町4-29 www.minyu-net.com

只見中学生が作りました
エコな新聞紙レジ袋

1 袋の裏は開いた新聞紙を1枚使います

2 上の方にある日付の下の線を手前に折り、その下に下半分を折って重ねます。手前に折った部分の内側にのりを付けて折り合わせ曲げにします

3 四角から折り曲げ、パズルをのりを入れたのり付の紙をのり付の紙の裏側に貼ります

4 手前から上に半分を折り、裏の部分も三角に折り、さらに裏の半分を上下に折ってのり付けします

5 袋部分が完成!

6 新聞紙を折り、袋の口を開く

7 袋の口を開く

8 完成しました!

レジ袋来月から有料

日本ではり月から、スーパーなどで使うプラスチック製のレジ袋が有料化されます。プラスチックごみは減りますが、世界中の高に減って、有害化学物質がまみれています。ごみそのほとんどが海鳥や魚などの体内に化学物質がたまりたり人体に入ると健康に影響を及ぼしたりする可能性があります。買い物する人がマイバッグなどを使うことでプラスチック製レジ袋を減らす、再利用できる製品を選ぶ、正しく分別してごみを捨ててリサイクルできるようにすることが大切です。

新聞社に掲載された
只見中学校の新聞紙レジ袋作り



中学生が作成した
新聞紙レジ袋・SDGs ホイール

学校と連携した講座の実施



中学生による
「新聞紙レジ袋づくり講座」
寄付も多く寄せられた



放課後こども教室での
「新聞紙レジ袋づくり講座」
講師は講座に参加した人

学びの発信の場



「第7回海洋教育こどもサミット」
「第8回全国海洋教育サミット」
海洋教育を進める他校との交流



「柳津町文化講演会」
近隣市町村に赴いての発表
只見川沿い市町村との連携



「ESD・海洋教育に関する」アンケートの実施

- ▶ 「只見愛」
- ▶ 「ESD・海洋教育への理解」
- ▶ 「只見町の文化や自然に親しむ・知る」
- ▶ 「自然や文化を守る」
- ▶ 「自然を利用する」
- ▶ 「海洋教育を通じた意識の広がり」
- ▶ 「能力・態度」

10項目 + 自由記述「町のよさと課題」

只見町「ESD・海洋教育に関する」アンケート

名前
学校 年

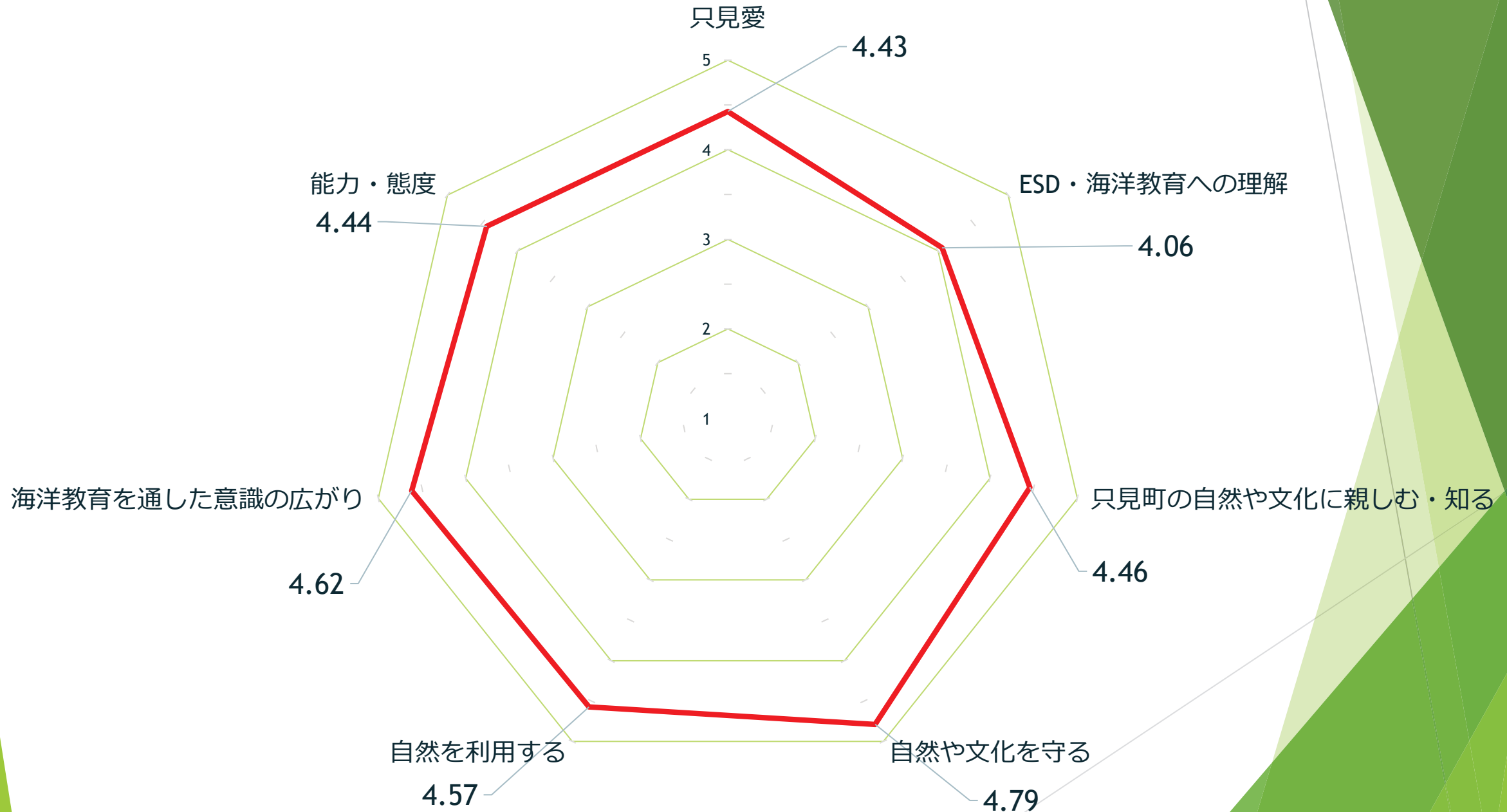
※これはアンケートです。テストではありません。

※自分のことに当てはまるもの、自分の考えに最も近いものの番号に○をつけましょう。

NO	質問	そう思う	少し そう思う	どちらでもない (わからない)	あまり そう思わない	そう 思わない
1	住んでいる地域や只見町が好き。	5	4	3	2	1
2	将来、只見町の役に立ちたい。 (只見町に住んでいても、住んでいなくても)	5	4	3	2	1
3	「ESD」とはどのようなものか知っている。	5	4	3	2	1
4	只見町と海はつながっていると感じることができる。	5	4	3	2	1
5	学習や生活の中で、只見町の自然や文化に積極的に関わっている。	5	4	3	2	1
6	只見町の自然や文化を守っていききたい。	5	4	3	2	1
7	只見町のよさを守りながら、よりよい町づくりについて考えていききたい。	5	4	3	2	1
8	地球や世界の平和のために、自分にできることを考えていききたい。	5	4	3	2	1
9	友達と協力しながら調べたり、考えたりしている。	5	4	3	2	1
10	自分の考えを分かりやすく伝えようとしている。	5	4	3	2	1
11	只見町の素晴らしさはどんどころだと思いますか？					
12	只見町の課題はどんどころだと思いますか？					

町内小中学校アンケートから

町全体(n=194)



町内小中学校アンケートから

町全体(n=194)

「只見愛」に関する設問

■ そう思う ■ 少しそう思う ■ どちらでもない ■ あまりそう思わない ■ 思わない
(わからない)

住んでいる地域や只見町が好き。

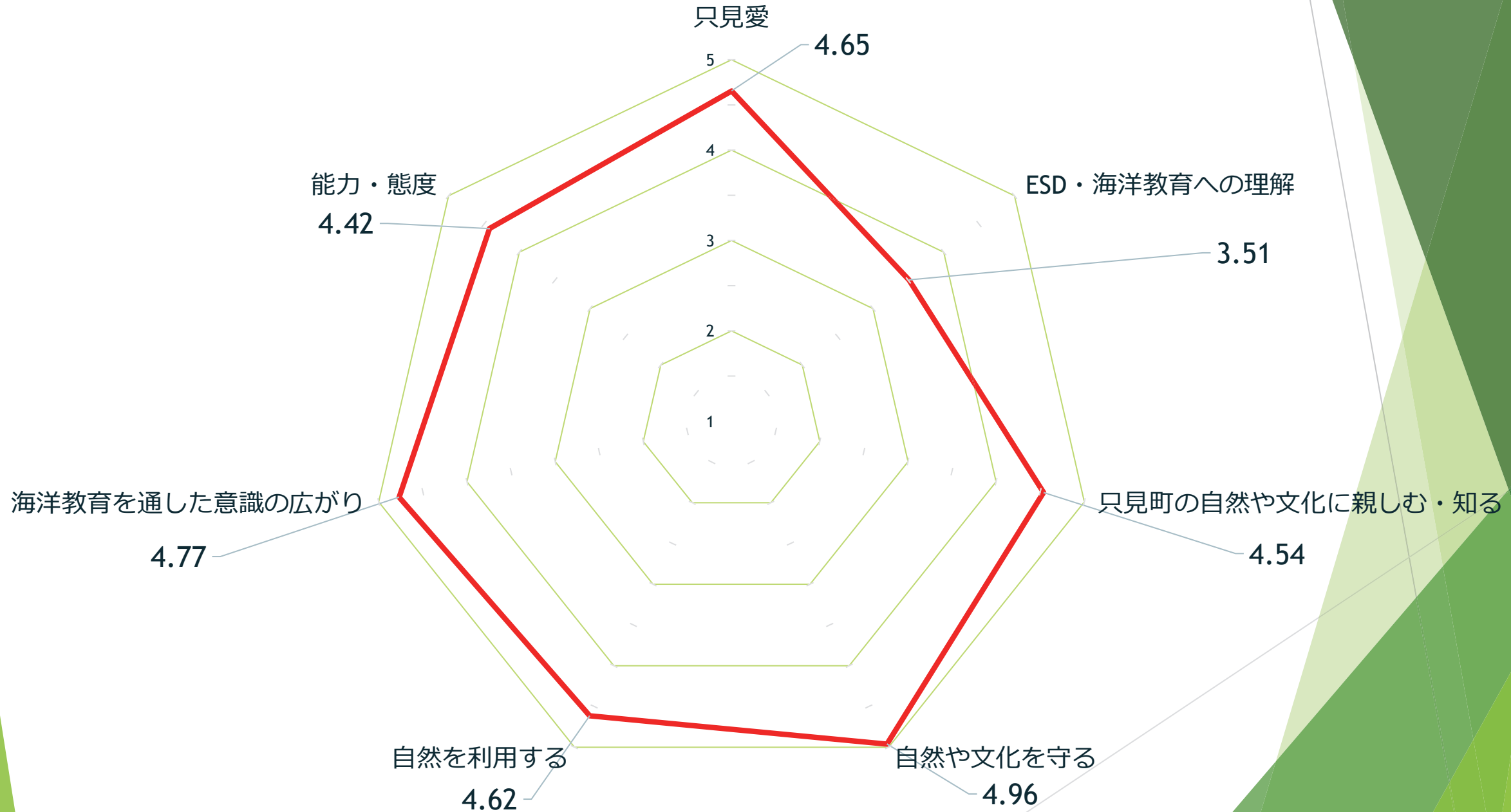


将来、只見町の役に立ちたい。
(只見町に住んでいても、住んでいなくても)



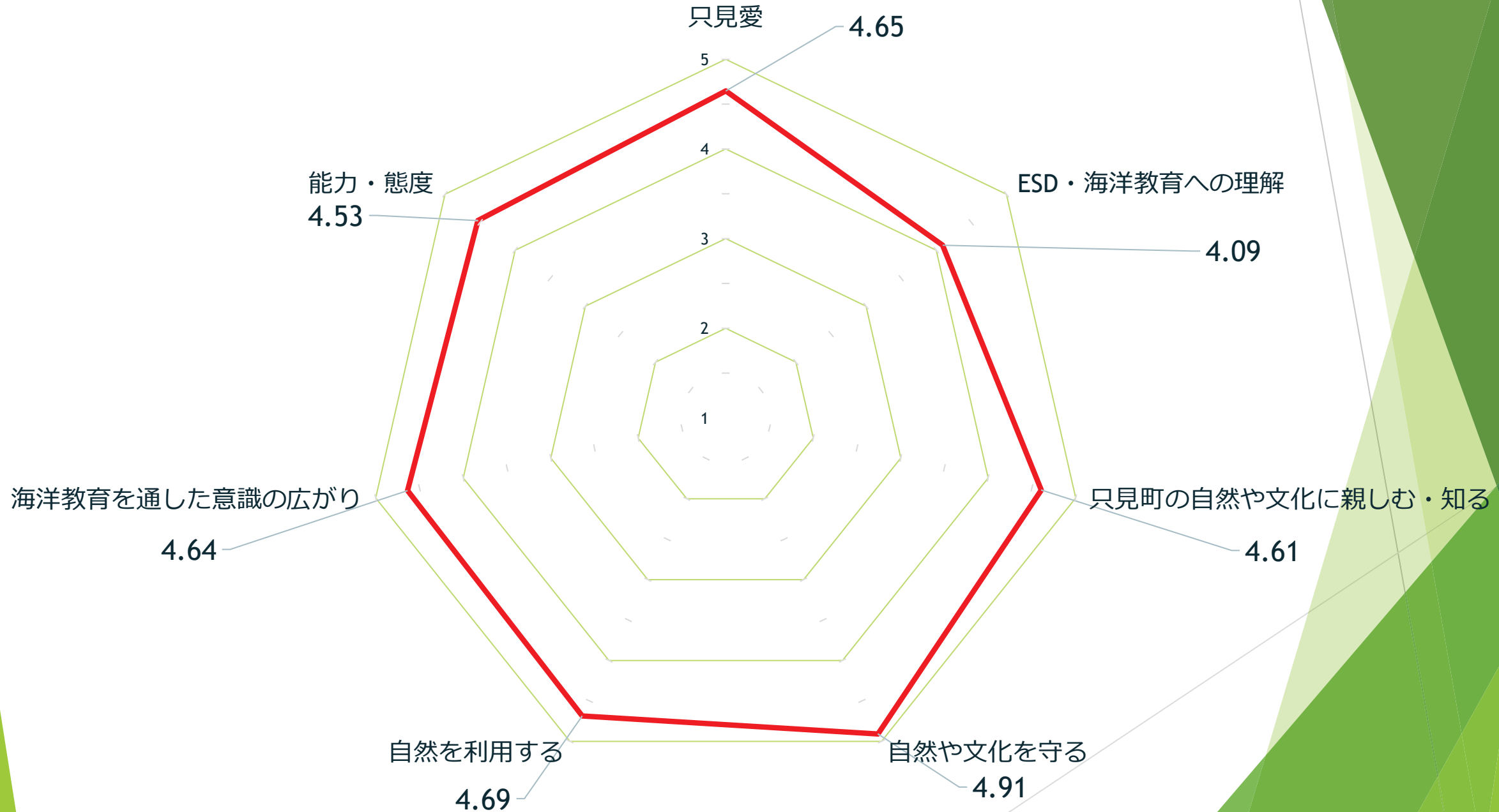
町内小中学校アンケートから

3年生(n=26)



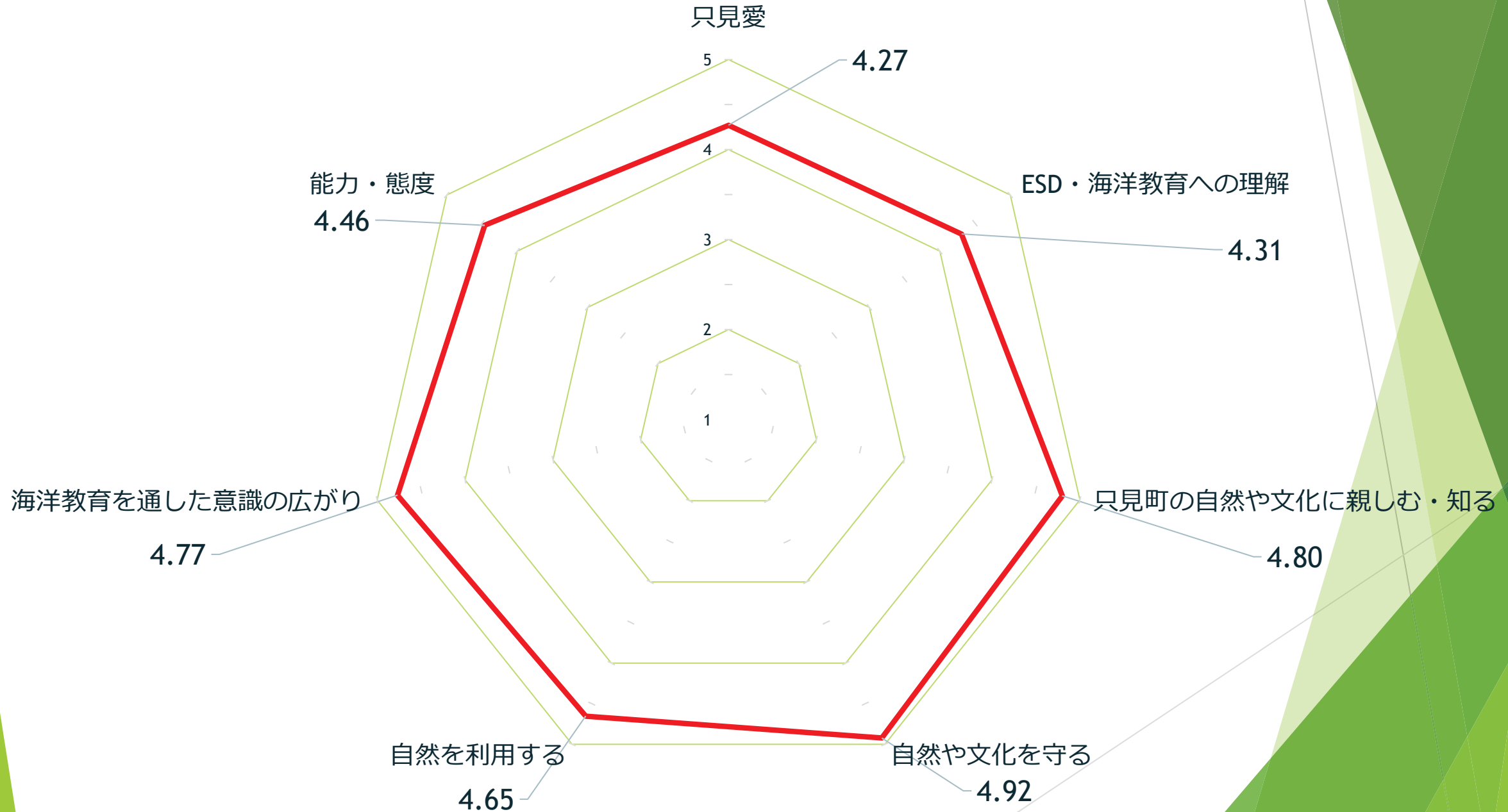
町内小中学校アンケートから

6年生(n=33)



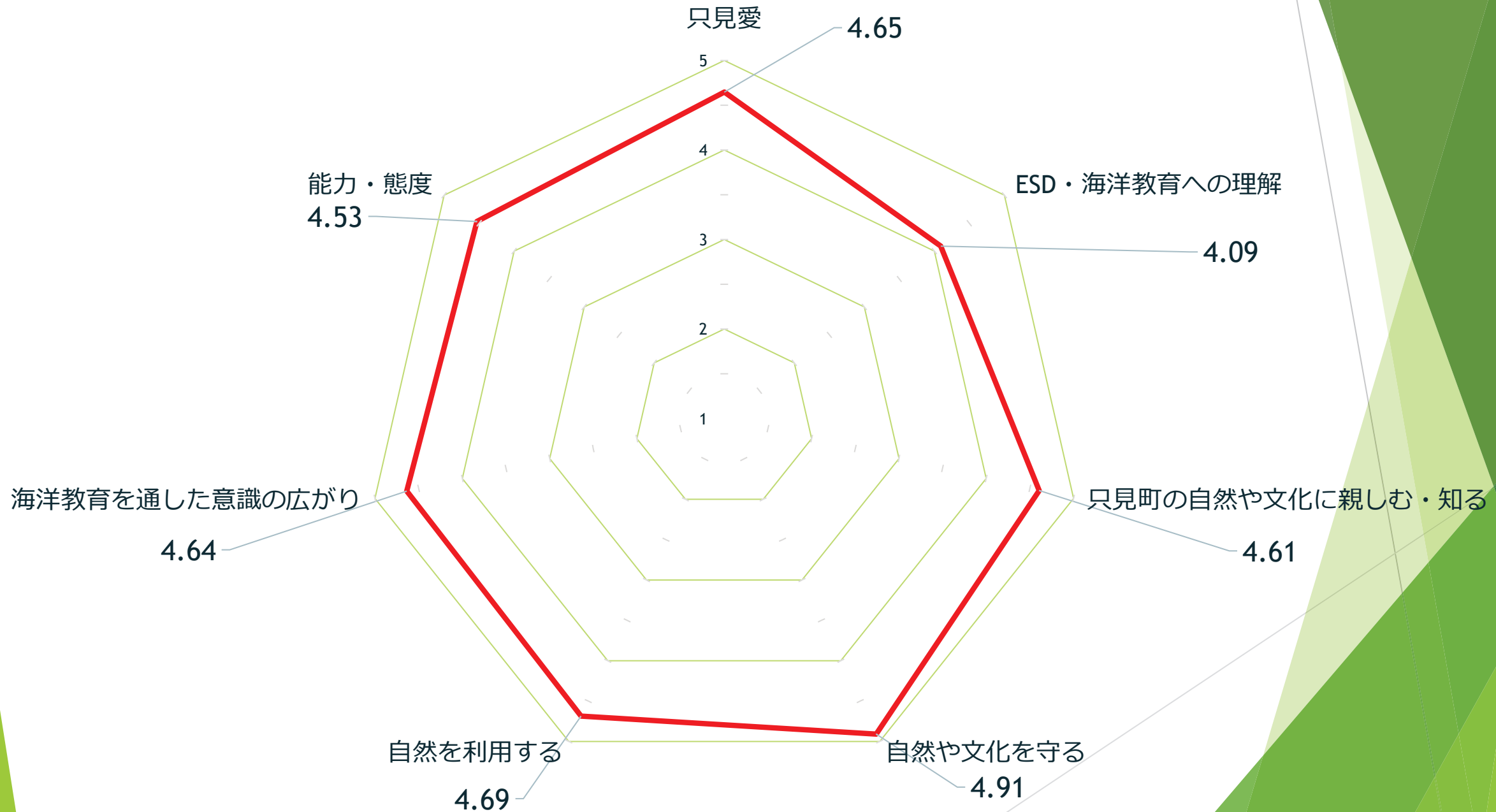
町内小中学校アンケートから

中3年生(n=26)



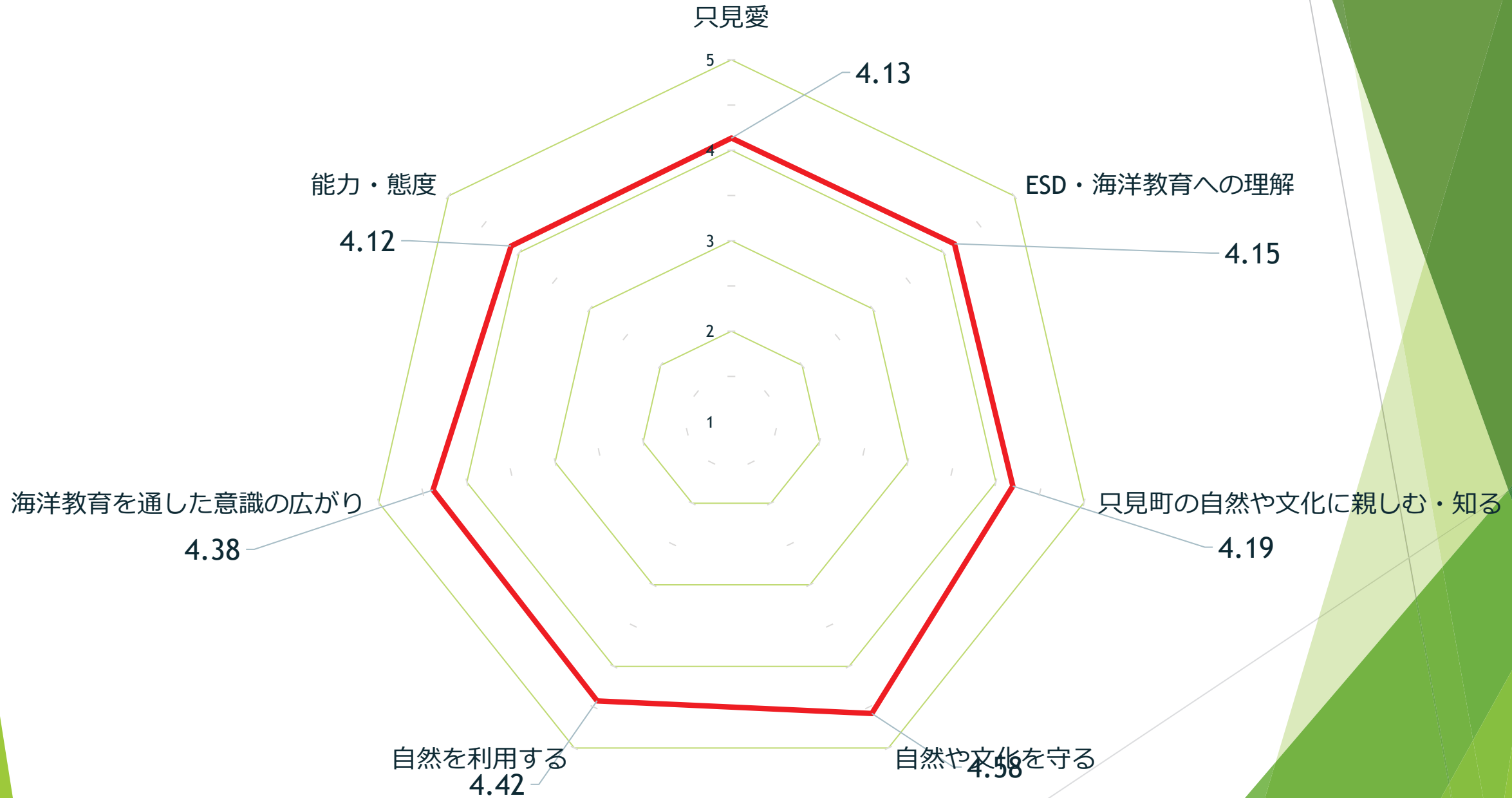
町内小中学校アンケートから

6年生(n=33)



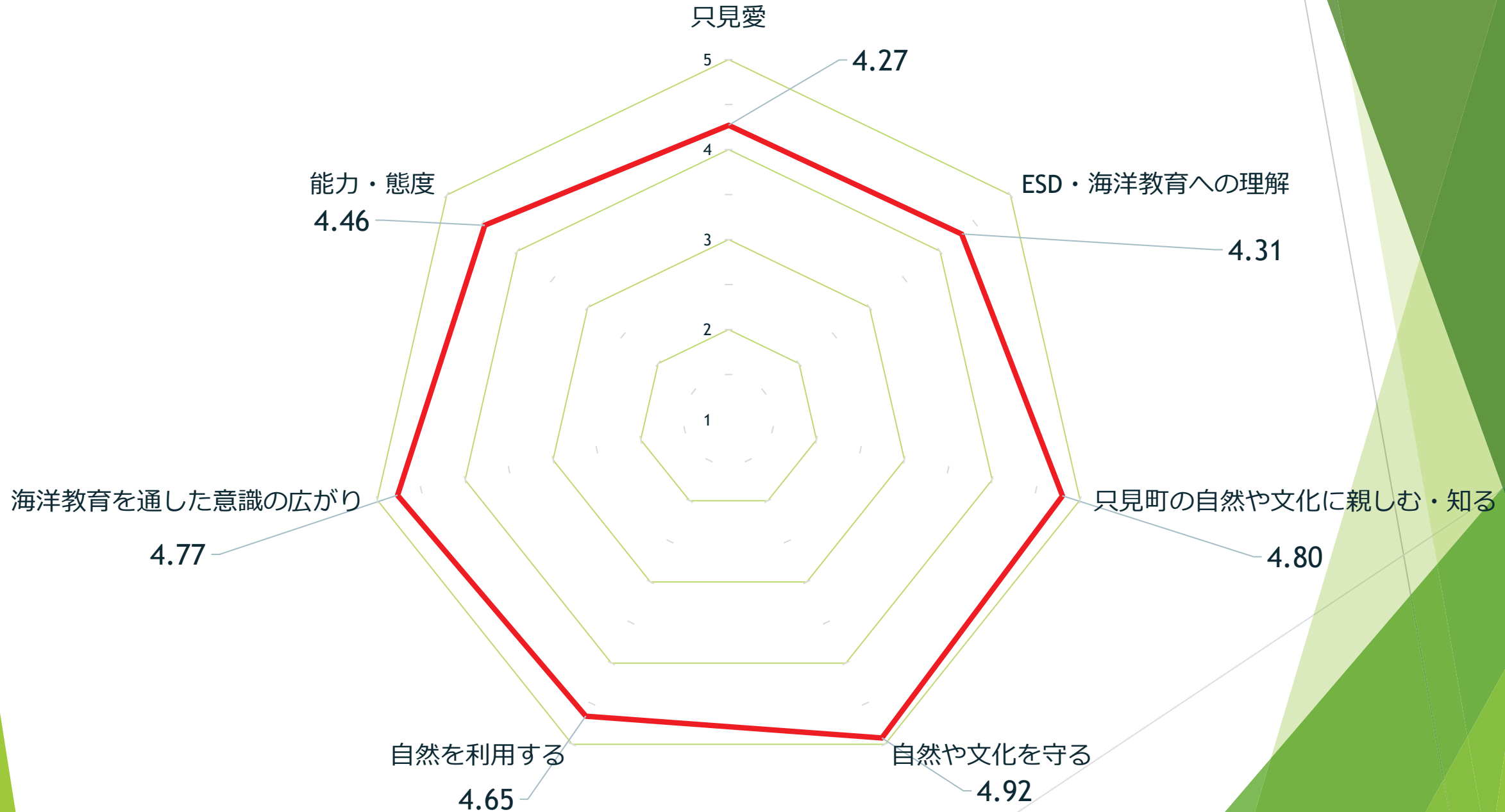
町内小中学校アンケートから

中1年生(n=26)



町内小中学校アンケートから

中3年生(n=26)



只見町内小学校の実践

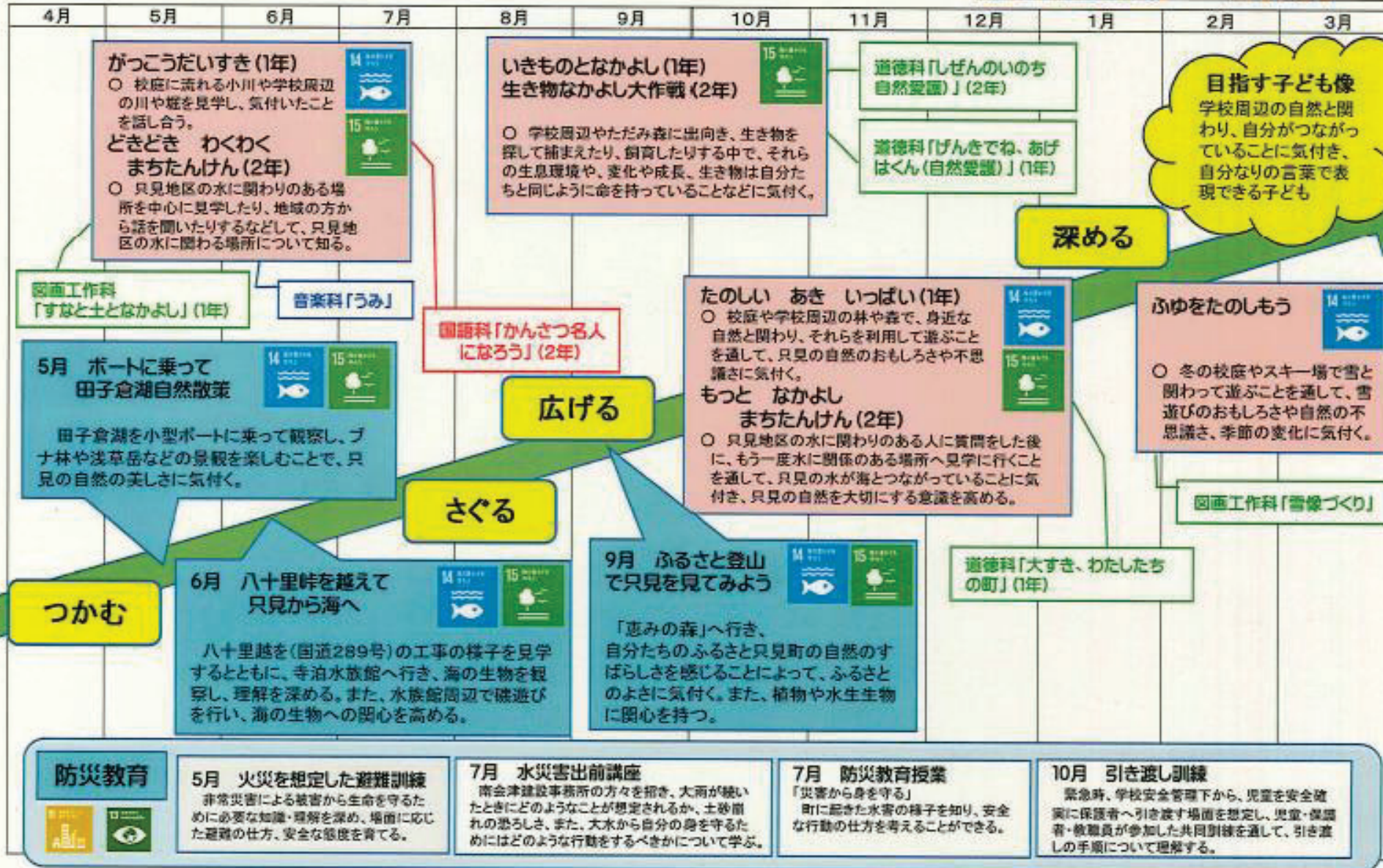
	只見小学校	朝日小学校	明和小学校
主題	ふるさと只見，そして日本の未来を拓くたくましい子ども育成	つながりの中で育む「只見愛」～未来へ向かって行動できる子どもの育成～	郷土への誇りと愛情を育み，広い視野をもってその未来に貢献できる児童の育成
視点1	カリキュラムマネジメントの充実	授業実践	地域学習の可能性を広げるカリキュラムマネジメント
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科や総合的な学習の時間と各教科のつながりを意識した単元開発 ○ ストーリーマップの改善 ○ 防災の視点に立った体験活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「只見学」の学びと海とをつなぐ，単元構想の工夫や開発 ○ 子ども達の主体的な学びを重視した実践 ○ 毎日の授業を通じた土台となる資質・能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資質能力の焦点化 ○ 子どもと地域が生きる単元構想 ○ 教科等と総合の横断的なつながりの可視化
視点2	地域の特色を生かす素材の教材化	学びを支える日常的な教育実践	子どもの思いや願いからつなぐ学び
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域人材の活用や施設・関連機関の活用 ○ 地域にある学習材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神話的な学級集団の育成 ○ 「学校と家庭が共に手をたずさえる学校」としての活動 ○ ユネスコスクールネットワークを活用した交流実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習，体験，言語化により自身とつなぐ ○ 友達，地域の方など他者をつなぐ ○ 経験とつなぎ，行動化する
視点3	子どもの変容を見取る方法の工夫		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びの跡」の掲示や累積 ○ 自己評価や相互評価の在り方 		

只見小学校のストーリーマップ

只見小学校 低学年 只見学(ESD・海洋教育)ストーリーマップ
「只見の人や自然を感じよう」

各教科との関連の4つの視点(枠の色分けで表記)

学習内容・認知面での関連	知識の深化
技能・リテラシー面での関連	技能の活用
情緒・価値観での関連	価値の醸成
態度・行動面での関連	行動の変容



朝日小学校のストーリーマップ

第5学年「只見の食と農作物」ESDストーリーマップ <学習テーマ> 只見町では、自然の豊かさを生かして、どのような生活を営んできたのだろう。

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
<p>土台となる資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史したり伝えたりする力（プレゼンテーション力） 自分の考えを伝え、交換し合う力（コミュニケーション力） 話し合いを通じて自分の考えを高める力（コラボレーション力） 協力して社会づくりに参加する力 問題と向き合う力・解決する力 論議的・批判的に考える力 多様な考えや価値観を尊重し合う力（インクルージョン力） 学びの振り返りや自己をみつめる力（メタ認知力） 取り組むべき課題や目標を設定し達成する力 基礎的・基本的な知識・技能（算数スキル、英語スキル） ICTスキル、情報リテラシー（情報スキル） 	<p>第5学年専攻領域における資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的な学び 協働的な学び 深い学び 学びの振り返り 課題設定力 問題解決力 協働力 基礎的・基本的な知識・技能 ICTスキル、情報リテラシー 	<p><<理科>>「植物の発芽と成長」</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物が大きく成長するためには、何が必要かを、条件整理しながら調べる。 	<p><<社会>>「わたしたちの生活と食料生産 ～水産業のさかんな地域～」</p> <ul style="list-style-type: none"> 主な漁獲の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結び輸送の働きを理解する。 水産業の様子と自然環境や国民生活を関連づけて思考・判断したことを適切に表現する。 	<p><<社会>>「わたしたちの国土」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国土の地形や気候の特色と只見町の地形や気候の特色を比較する。 標高や気候の違いによって、暮らしを工夫していることに気づき、只見町では、どんな暮らしの工夫をしているか考える。 	<p>〇 調べたい産物ごとにグループに分かれ、なぜ只見町でその産物が盛んに生産されている（食べられている）のかを調べる。</p> <p>共通課題 <米> 新米生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 米づくりを体験してみたい。一田植え体験 農家の人に、米づくりの工夫について聞いてみよう。 米作りをされていて、気になることはあるのかな。 <p>グループ課題 <トマト> 自然だいすけ</p> <ul style="list-style-type: none"> どのように作っているのかな。 トマトを作っているところに行ってみよう。 トマト作りをされていて気になることはありますか。 <p><イワナ> 町下牧場 小沼のふか(82-3763)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔から川で獲られていたのかな。 イワナの卵のたくさんをイワナは持つてるのかな。 イワナを育てていて、気になることはあるのかな。 <p><美味> 生天日時子</p> <ul style="list-style-type: none"> どのようにミソバチを育てているのかな。 なんで、只見町で美味をしようと思ったのかな。 美味をされていて、最近気になることはあるのかな。 	<p>〇 只見町の産業について調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近、只見町では困ったことが起きているみたいだよ。 農家の人も、美容師の人も同じようなことを書いているね。 只見町の夏の気温の低下や、雪の降雪量も大変なことになっているよ。 <p>〇 課題設定2につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 只見町で起きている変化は、只見町だけの問題なのかな？ どうしてこのような問題が起きているのだろう。 原因はなんだろう。 	<p>〇 只見町で起きている問題は、只見町だけの問題なのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近、只見町では困ったことが起きているみたいだよ。 農家の人も、美容師の人も同じようなことを書いているね。
<p>課題設定1 只見町は、自然の豊かさを生かして、どのような産業を行っているのだろう。</p>							
<p>課題設定2 只見町で起きている環境問題の原因について考え解決策を考えよう。</p>							
<p>まとめ・ふりかえり 調べたことをまとめよう。</p>							
<p><<国語>>「目的に応じて引用するとき」</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や書目に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝える。 		<p><<社会>>「わたしたちの生活と食料生産 ～米づくりのさかんな地域～」</p> <ul style="list-style-type: none"> 庄内と只見の米づくりに関係する共通点や相違点を見つめる。 米づくりの抱える様々な問題を捉え、今後の発展のためにどのような取り組みができるかを考える。 		<p><<なかよし活動>></p> <ul style="list-style-type: none"> 只見の川に親しみ、川のもぐみを実感する。川の様子や川に住む生き物について知る。 			
<p><<道徳>>「植物とともに 牧野富太郎」</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きなことや興味のあることを追究し、心理を求めようとする意欲を高める。 							
<p>海洋教育との関連</p> <p>陸の豊かさとの関連</p> <p>気候変動との関連</p>							

明和小学校のストーリーマップ



Climbing Routes 第4学年テーマ▶水とのかかわり

目指す児童像

社会の諸問題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組んでいこうとする主体性や問題を見出し解決を図ろうとする態度を持つ児童。

月	総合的な学習の時間	各教科等との関連の視点				ESD でつきたい能力・態度
		知識の深化 学習内容・認知	技能の活用 技能・リテラシー	価値の醸成 情緒・価値観	行動の変容 態度・行動	
4	【身近な地域の水の循環について知ろう】⑩ ・只見を流れる川について知ろう					
5	・地域の水の循環について考えよう					
6	・川の水の原水を探ろう	社【水はどこから】 ・水の循環について知る	国【みんなで新聞を作る】 ・情報の精選			
7	◇尾瀬遠足				行◆尾瀬遠足 ・環境保全	
8						
9	【只見町の自然について知ろう】⑪ ・ブナ森の役割について考えよう ◇明和発見タイム (癒しの森散策)		国【わたしの考えたこと】 ・文章構成の仕方			
10	・只見町の川の水質を調査しよう ◇学習発表会	社【谷にかこまれた台地に水を引く】 ・大倉地区水路掘削		道【自然や動植物を大切に】 ・自然愛護		③多面的、総合的に考える力
11	【自然を守る取り組みについて考えよう】⑫ ・自然を守る取り組みについて気づき ・只見町の自然を守るためにできることを考える	理【水のすがたと温度】 ・水の状態変化				④多面的、総合的に考える力
12	◇只見おもしろ学検定	社【日本地図を広げて】 ・47都道府県の特徴や名称と位置 理【自然のなかの水のすがた】 ・水の自然蒸発と凝結				
1			体◆スキー ・雪の利用			
2	◇明和っ子雪祭り ◇伝統芸能発表会			道【石っこけんさん宮沢賢治】 ・自然愛護		
3	【身近な地域の水の循環について知ろう】 只見町を流れる川の流れについて知ることを通して、川の水はどこからきてどこへいくのか考える。只見町の地下水の利用についても知ることによって只見町の水の純度についての意識をもたせる。また、水の循環について考え、尾瀬遠足への動機付けを行う。 【只見町の自然について考えよう】 癒しの森散策や伊南川の水質調査をすることを通して、只見町の自然について理解を深める。只見町の自然の豊かさを実感し、自然を守る取り組みについて考えをつなげていく。 【自然を守る取り組みについて考えよう】 川の流れをたどり、海とのつながりを実感し、只見町の自然について理解を深めたことを通して、自然を守るための取り組みについて考えたり、身近な自然を守っていこうとする気持ちを高めたりする。					

12月に実施。
食物連鎖や海の生き物へかかわる内容のため、川の道筋をたどった児童の思考の流れに合わせた。海の環境保全の視点も交えて取り扱った。

児童の思考の流れに基づき、「海と森とのつながりについて考えることができる。」に変更。

海の視点を交え、1・2月に実施。内容も只見の自然だけではなく、「地理的に広い視野をもって身の回りの自然を守っていくことの意義に気づく。」に変更。

児童の実態

只見町を流れる川の水がきれいだと全員の児童が思っているわけではないことや只見町の自然豊かな場所で見られない生物の貴重さに気づいていない児童が多いことから、多くの児童が只見町の自然の豊かさの価値に気づいていない。

教師の願い

他教科と関連して知識を得たり、実際に身近な地域の自然に触れたりすることを通して、町の貴重で豊かな自然について知り、それらを守ろうとする意識を高めることができる。

地域学習から海へ



「ふるさと登山」
川の始まり



「田子倉湖散策」
川での体験活動



「川の生き物」



「川の水質調査」



森の恵みを実感



「八十里を越えて海へ」
海での体験活動

Think Globally , Act Locally



河川のごみ拾い
自分達で行動を起こす



学級に「エコ係」
ごみの分別を進める

中学校の実践 ～プロジェクト学習～

「コキア」を栽培して
ほうき作り
奉仕活動へ



ブナの間伐材を使って
SDGs ホイール作り
町内に配り意識を高める



防災学習
地域の人と炊き出しや
救急救命の講習も





2021. 2. 17



ご清聴ありがとうございました